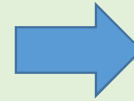


福祉用具センターにおける新たなニーズへの対応

厚生・産業常任委員会 資料2-2
令和4年(2022年)6月8日
健康医療福祉部健康寿命推進課

(開設当初のニーズ)

- ・高齢者の在宅生活に係る福祉用具を本人・家族に紹介。
- ・本人・家族からの相談に応じた福祉用具の改造製作。
(例:車イスの高さや幅の変更等。)



(近年のニーズ)

- ・支援者に向けた福祉用具の啓発(専門的な研修)。
- ・障害児・者に対する特殊な福祉用具の試用(支援者への貸出)。

具体例

抱え上げない介護への対応

抱え上げない介護とは?

介護・福祉・医療の現場では入浴介助や移乗介助など、ケアを受ける方を抱え上げたり支えたりする場面が多くあります。「抱え上げない介護」は介護する人・される人どちらにも優しい「抱え上げない、引きずらない、持ち上げない」介護です。福祉用具の活用や身体の使い方などの介護技術に加えて、職場全体で腰痛リスクを軽減し、ゆとりあるケアを提供することで介護現場を安全・快適なものに変えていく新たな取組です。



スタンディングリフト。本人の力を活かすことで、トイレ動作の立位保持と下衣着脱が介助者一人で行うことができる。



床走行式リフト。施設等でリビングスペースから車イスへの移乗等が介助者一人で行うことができる。



リフトに使うシートは素材や形状も様々であり、利用者個々の体形や環境に合わせたシートの選択が可能。

専門的な機器を要するコミュニケーション支援(意思疎通支援)の推進

コミュニケーション支援とは?

コミュニケーション支援が必要とされる障害には、主に視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、認知障害などの種類があり、障害の特徴に合わせて用具を使うことによって、コミュニケーションの幅を広げることができます。例えば、支援者の問いかけに「はい」「いいえ」で答えるだけでなく、障害のある方自身が主体的にコミュニケーションをとることが可能となり、障害のある方だけでなく、その方の家族や介護者など周りの方の負担も軽減することができます。



ビッグスイッチツイスト。スイッチの任意の場所に力が加わるだけで入力操作ができるため、指先に力を入れることができなくても入力が可能。



ポイントタッチスイッチ。手が動かなくなった場合に、口元等でタッチするだけで入力が行えるスイッチ。



TCスキャン。視線入力装置。手足が不自由な方が目の動きだけでコミュニケーションを図ることができる。